



夏を届ける 江戸風鈴職人

300年続く江戸風鈴を
作り続ける職人の仕事



「江戸風鈴」の伝統を守り続けている、篠原風鈴本舗の4代目・篠原由香利さん。

東京の伝統工芸の一つに、江戸時代から作られている「江戸風鈴」があります。夏になると、家の軒下につるされ、風が吹くと、チリンチリンと鳴る涼しげな音色は、夏の風物詩になっています。

東京都江戸川区にある「篠原風鈴本舗」は、江戸風鈴発祥の工房です。2代目の篠原儀治さんが、江戸時代から作られているガラス製の風鈴を、「江戸風鈴」と名付けました。

江戸風鈴は、型を使わずに空中で膨らます「宙吹き」、ギザギザとした鳴り口、内側に絵を描く製法が特徴です。江戸時代から変わらない製法で、今も作られています。

風鈴はもともと「魔よけ」として1年中使われていました。時代の変化とともに、夏の風物詩として親しまれるようになりました。



赤と音を嫌う「魔物」を防ぐとされていました。

江戸風鈴ができるまで

風鈴を作る作業は、二人一組で行います。まず、1320℃ほどにもなる炉の中で溶けたガラスをガラス管で巻き取り、口玉といわれる小さな玉を作ります。



ガラス管の先の小さな玉が口玉。

続いて、口玉の上にもう一度ガラスを巻きつけます。この部分が風鈴本体になります。巻き取ったガラスを、「宙吹き」という製法で、型を使わずに空中で膨らませ、きれいな丸にしていきます。そして、針金で糸を通す穴を開け、最後に一息で形を仕上げます。



風鈴本体を空中で膨らませているところ(宙吹き)。

ガラス管から切り離して冷ましたら、口玉の部分を切り落として音の鳴り口を作ります。



口玉を切り落とす前の風鈴。



音の鳴り口をあえてギザギザにするのが特徴。

鳴り口をツルツルにしてしまうと、滑って音が出ません。ギザギザにすることで、中につるす管が鳴り口にこすれるだけで音が鳴ります。

出来上がった風鈴に、雨風などで色が落ちないように、内側から絵を描いていきます。内側から描くので、普通に絵を描くのとは逆になります。描くデザインによって、色をつける順番が変わります。



色の粉を油で溶いて使います。



はけ
刷毛を使って、一色ずつ分けて塗っていきます。

風鈴本体は、一日に約300~400個ほど作り、絵付けをして完成まで至るのは、およそ100~150個です。風鈴は、夏に向けて一年中作っています。夏が終わると、また次の夏に向けて作ります。

インタビュー

主に絵付けを担当している篠原風鈴本舗の4代目の篠原由香利さんに、お話をうかがいました。



篠原風鈴本舗 4代目・篠原由香利さん

— お仕事の内容を教えてください。

風鈴の絵を描く仕事(絵付け)です。すべて手作業なので、一個一個を確実に、素早く仕上げるのが求められます。デザインや風鈴の大きさによっては、1個を作るのに、3週間ほどかかるものもあります。

あとは、ホームページやfacebookで、全国各地の百貨店などのイベントに出展する際に告知をしたり、新商品の案内を行ったりしています。そのほかにも、商品の包装から発送、風鈴作りの体験に来られた方への説明なども行っています。

— 風鈴職人になろうと思ったいきさつを教えてください。

就職活動をしているときに、会社で自分がどんな仕事をするのか、具体的なイメージが湧きませんでした。風鈴職人の仕事は子どもの頃から手伝われてきたこともあり、どんなことをやるかなんとなくイメージがあったので、自分にもできそうだと思いました。ただ、作ったものを自分で売らなければいけないことまでは考えていなかったので、接客が苦手なこともあり、はじめはたいへんでした。

— 江戸風鈴のこだわりを教えてください。

鳴り口をわざとギザギザにしていることです。ギザギザにすることで、中につるした管が鳴り口にこすれるだけで、耳に優しい音が響きます。

この鳴り口を作るために、口玉を作り、型を使わない宙吹きで作っています。すべて手作りなので、ガラスの厚みや風鈴の大きさによって、音がそれぞれ違います。

— お仕事をするうえで大切にしていることはありますか？

風鈴を使う人の視点を大切にしています。皆さんの中には、風鈴を知らない人もいます。なので、風鈴を見たときに「この柄、おもしろいから欲しいな」と思って、手に取ってもらえるようなデザインを意識しています。

あと、最近は海外のお客さんも増えていきます。海外の方には、とんぼ柄の風鈴が人気なのですが、そこに描かれたとんぼも、風鈴を見たときに、夏っぽい雰囲気を感じられるように、涼しげな色を使っています。

— お仕事をしていて、うれしいときやつらいときはありますか？

作ったものが売れたときはうれしいです。つらいときは、やっても、やっても仕事が終わらないときです(笑)。

— どんな人が向いていますか？

どんな仕事でもそうかもしれませんが、1つのことを我慢強く続けられることと、あと体力がないと難しいと思います。私たちの場合は、毎日同じ作業をするので、それを嫌だなど思わない人。

あとは、人と話ができる人。今は職人も、自分で作ったものを伝統工芸品の展示会などに出展したり、直接お客さんに販売したりします。

——最近の取り組みについて教えてください。

江戸川区が行っている「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト」で、女子美術大学の学生といっしょに、風鈴を製作しました。

江戸川区では、2003年度から江戸川区の伝統工芸の高度な技術と製品を次代に継承していくために、新たな産業の育成に向けた取り組みとして、「えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト」を行っています。江戸川区の伝統工芸者と女子美術大学が連携して、新しい伝統工芸製品を創る事業です。

私たちは、2003年の初回から毎年参加しています。江戸風鈴の場合は、学生にデザインを考えてもらい、私たちが実際に商品化できるのかどうかを判断します。手に持つのが今回の新作。



プロジェクトが始まったばかりの頃は、商品をデザインすることがどういうことを学生に伝えるのが難しく、デザインとしてはおもしろくても、実際の製作や大量生産に向かないものも多かったです。

毎年参加していく中で、徐々に現在も続けて販売できているものが出てきて、2018年度、商品化まで至ったものの1つが、マトリョーシカ人形をデザインした風鈴です。

また、最近では、新たな試みとして、人気キャラクターとコラボレーションした商品なども製作しています。おもしろそうなことがあれば、つねにチャレンジするように心がけています。

——今後、江戸風鈴の魅力をもどのように残していきたいですか？

江戸風鈴の伝統が今も残っているのは、風鈴を買って、使ってくれているお客さんがいるおかげです。これからも、一人でも多くの人に欲しいと思ってもらえる江戸風鈴を作っていきたいです。



江戸風鈴の伝統を今に伝える篠原風鈴本舗の職人さんたち。

——最後に、読者の子どもたちにメッセージをお願いします。

まずは風鈴を知ってもらいたいです。もともとは「魔よけ」として使われていた風鈴が、夏の風物詩になり、時代によって、使われ方が変化してきています。それぞれの楽しみ方で、風鈴を楽しんでもらえたらと思います。

また、篠原風鈴本舗では、江戸風鈴の見学・製作体験も行っています。自分で作ってみると、愛着もわくと思うので、ぜひ一度体験しにきてください。



室内でも楽しめる卓上用スタンド。

篠原風鈴本舗では、江戸風鈴の見学・製作体験も行っています
くわしくはホームページをご覧ください。http://www.edofurin.com/

イベント・催事情報や新商品のご案内はfacebookでも随時更新中！
facebookは右記のQRコードから（ログインせずにご覧いただけます）

QR
コード

